2022.05.05. 木曜礼拝　彼らは平安がないのに「平安」と言う

エレミヤ書６章

JD ファラグ牧師

木曜日の夜は、聖書を書ごと、章ごと、節ごとに読み進めています。現在はエレミヤ書です。ちょうど考えていたのですが、ここにいる、エレミヤ書がどんなものかご存じの皆さんにお礼を伝える良い機会かもしれません。あなたがここにいるという事実、そして何よりあなたが戻ってきたこと、特に先週の第５章の後に。先に読み進めている人はご存じだと思いますが、これ以上良くなることはありません。

実際には、本当に先週の続きのようなものです。しかし神は、とても良いお方で、これは本当に必要なことです。厳しい御言葉ですが、良い御言葉であり、適切な御言葉なのです。

では祈りましょう。今夜、共に過ごす時間を神が祝福してくださるよう求めましょう。よろしければご一緒にお願いします。

天の父よ、本当にありがとうございます。主よ、私たちは本当に感謝しています。なんとも虚しい響きですが、しかし、主よ、あなたは私たちの心をご存じであり、私たちのあなたへの思い、あなたの御言葉への思いをご存じです。だからこそ、今夜私たちはここにいるのです。あなたを必要としています。私たちは、飢え乾いています。切実に求めています。私たちは、あなたがあなたの御言葉を通して私たちの人生に語ってくださることを必要としています。

主よ、この場所、このあなたの教会で、この時間を過ごせることを感謝します。私たちが来て、集うことの出来る場所です。あなたの御言葉の中で過ごす時間、私たちの生活のすべてのストレスや、忙しさを脇に置いて、主よ、聖霊の音叉が、私たちの心を調律してください。そうすれば、私たちはあなたがお語りになり、あなただけがお出来になるように、聖霊の静かで小さな精錬された声を聞くことが出来ます。

主よ、どうかお語りください。私たちは、あなたがその御言葉を私たちの心に語ってくださることを切実に必要としています。主よ、感謝します。私たちは、この聖書の学びをあなたに捧げたいのです。イエスの御名によって、アーメン。

それでは。６章では、神は預言者エレミヤを通して、言い方は悪いですが、ご自分の主張を続けておられます。法廷のように見えるかもしれませんが、そうなんです。神は、ご自分の民を訴えておられるのです なぜなら、神はご自分の民に裁きをもたらすからです。これにはいくつかの理由がありますが、そのうちのひとつは、これから見ていくとおり、平和でないのに「平和だ、平安だ」と言いながら、誰もが互いに偽りの取引をしていたのです。平和でないのに「平和だ、平安だ」と言いながら、誰もが互いに偽りの取引をしていたのです。繰り返しますが、それは実に…また言葉は悪いですが、それは強烈で、なぜなら、神は預言者エレミヤを通して民に警告し、民が自ら招いたことであることを告げなければならないからです。それを今夜見ていきます。ここでも、この章に織り込まれている、強烈なものがあります。この懇願、これこそ神がご自分の民を決してあきらめられないということです。神はまだ、民に悔い改める時間、いわば正気に戻り、神のもとに戻ってくる機会を与えておられるのです。しかし、民はそうしません。民は聞きますが、心に留めないのです。多くの警告にも関わらず。それでは、準備はいいですか？本当に？（笑）１節から入りましょう。

エレミヤ６

１ベニヤミンの人々よ、エルサレムの中から避難せよ。テコアでラッパを吹き、…

待ってください。なぜそう発音するのか？　なぜなら、私が育った町の名前だからです。ワシントンのテ

コア。「あぁ、私はテッコアだと思いました。」違います、テコアです。ええ、ちょっと待ってください。そこは町で、とても小さな町です。イスラエルにあるエルサレムに近いこの町から名付けられたようです。そして、ここで紹介するもう一つの町があります。

…ベテハケレムに合図の火をあげよ。…

エルサレム郊外の二つの町です。そこは、災害や 破滅、脅威が迫っている場合、町に警告する責任があったのです。そこで火をつけると、エルサレムでその煙を見ることになるのです。そして、その火が合図となり、その煙が、「やって来る」という合図となったのです。そして、私の故郷であるワシントン州テコアでも、このベテハケレムという町でも、そのようなことが行われていたのです。

…北から災が臨み、大いなる滅びが来るからである。

これもまたバビロンのことです。

2 わたしは美しい、たおやかなシオンの娘を滅ぼす。

これは良くないことです。エレミヤがここで言っているのは、「あなたは軟弱になった。長い間、いい思いをしてきたので、デリケートな女性のように非常に軟弱になってしまった。北の果てからやって来るものには敵わない。」

3 牧者たちは、その群れをひきいて来て、彼女を攻め、彼女の周囲に天幕を張る。群れはおのおのその所で草を食う。

4「戦いを始め、彼女を攻めよ。立て、われわれは真昼に攻撃しよう。」「わざわいなるかな、日ははや傾き、夕日の影は長くなった。」

5「立て、われわれは夜の間に攻撃しよう、そして彼女のもろもろの宮殿を破壊しよう。」

エルサレムのことです。ここで興味深いのは、繰り返しますが、エレミヤの時代と同じように、現代にも預言的に類似しており、息を呑むような衝撃を受けます。大げさに言うつもりはありませんが、しかし、エレミヤが当時の民に語っていることは…ところで、これは民に語られ、民に預言されたのです。民はエレミヤから、神が民にもたらそうとしておられることを聞いたのです。そして、私たちはこの世代を経て、神の御言葉の中にあるこの言葉を読んでいるのです。それはこんにちの私たちにとてもぴったりなのです。これがその結論に至った理由です。

「時間がありません、皆さん。裁きがきます、皆さん。そしてそれは、思っている以上に早くに。日は暮れてきて、夕日の影は長くなった。その時が来た。」ということです。それがエレミヤが語っていることです。なぜか？　なぜなら、今、このようにあなたに対して戦争の準備をしているのですから。彼らは立ち上がって、あなたに向かってくるのです。やって来ます。その時は迫っています。つまり…お許しいただきたいですが、この 4 節と 5 節は、現代の私たちに向けて書かれたようなものでしょう。もう時間はありません。その時は間近です。時が迫っています。裁きが来ます。6 節。

6 万軍の主はこう言われる、「あなたがたは彼女の木を切り倒し、エルサレムにむかって塁を築け。これは罰すべき町である、そのうちにはただ圧制だけがある。

そして、この 7 節のキャンバスに描かれた、イメージを見てください。

7 井戸に新しい水がわくように彼女（エルサレム）はその悪を常にあらたに流す。そのうちには暴虐と破滅とが聞える。わたしの前に病と傷とが絶えない。

8 エルサレムよ、戒めを受けいれよ。さもないと、わたしはあなたから離れ、あなたを荒れ地とし、住む人のない地とする。」

わお…何という描写でしょう。何というイメージでしょうか。イメージという言葉は、イマジネーション（想像）という言葉からきています。イメージ、想像。私たちには、神から与えられた想像する力、良い想像力があります。ここでも同じことが言えます。想像してみてください。このイメージを。このイメージを想像してください。「井戸に水が湧くように」もちろん、私たちの文化では、これは無縁のことですが、彼らにはそうではありません。あなたが汲んでいる井戸の水、井戸が水で溢れている。井戸がそうなる時、あなたと似ている。なぜなら、あなたがその井戸だから。湧き出ているのは、水ではなく、悪です。溢れ出すようなイメージですね。そして、より具体的なことも分かります。この悪とは、暴虐と略奪なのです。わお…！　そんなことを彼らは行っていたんですか？　ーそうです。そんなにも酷かったのですか？　ーそうです。繰り返しますが、これは、神が正義の裁きを下すために、正しく主張されているというレンズを通して見てください。神は根拠を並べておられるのです。もしあなたの心の目に、再びこの法廷のイメージが浮かぶ必要があるなら、そうしてください。神はご自身の意見を主張しておられるのです。「あなたは有罪です。」そしてここで、処罰が生じ、罰がやって来ます。裁きがやって来ます。このことのゆえに、それは正しい裁きなのです。9 節。

9 万軍の主はこう言われる、「ぶどうの残りを摘みとるように、イスラエルの残りの民をのこらず摘み取れ。ぶどうを摘みとる人のように、あなたの手をふたたびその枝に伸ばせ。」

10 節、注意して聞いてください。

10 わたしはだれに語り、だれを戒めて、聞かせようか。見よ、彼らの耳は閉ざされて（無割礼で）**、肉が彼らの耳を覆っていて、耳を覆っている肉を、切り取る必要がある。彼らの耳は閉ざされて、聞くことができない。見よ、彼らは主の言葉をあざけり、それを喜ばない。**

もしこれが 5 章で読んだ節のように聞こえるなら、それは 5 章で読んだ節だからです。可愛くしようとか媚びようとしているわけではありません。しかし実際のところ、神は再び、ご自分の主張を述べながら、彼らを起訴しているのです。これを、想像してみてください。神の御言葉は、彼らにとって神の御言葉はとても不快なものでした。それは非難でした。関心を持たず、喜びもありませんでした。それをもう一度、私たちの時代に置き換えて考えてみると、こんな感じでしょうか。あなたが持っているその聖書は…、おっとすみません。あなたが持っている 12 冊の聖書の内の 1 冊ですね。ただほこりがかぶったままになっています。長い間放置していたので、いざ開こうとすると、ページがくっついてしまっているのです。もし聖書が喋れるなら、こんな感じでしょう。「おぉ！どこに行ってたんだい？　また会えて嬉しいよ。会いたかったよ。久しぶりだね。本当に久しぶりだね。実際、私の記憶違いでなければ、数年前ぶりだね。あなたは関心がなかった。」神の御言葉に関してもそうだったのです。まさに二重の意味での告発です。彼らとって神の御言葉は、非難されるものだっただけでなく、彼らにとって神の御言葉は、何の興味もないものであり、彼らにとって神の御言葉は喜びではなかったのです。詩編の中のダビデが思い浮かびます。詩編 34 編です。34 か 37 編だと思います。ごちゃまぜになりました。私たちはまずこれで失敗するんです。ダビデはこう言っているからです。

「主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」（詩編 37:4）

ほんとに？いいね～！　ちょっと待って。確認させてください。だから、私が主を喜びさえすれば、主は私の心の願いを何でもかなえてくださるのですね？　おぉ、私は喜びます。 本当に嬉しいです。そういう意味ではありません。こういう意味です。神はまず、あなたにその願いを与えられます。神はあなたの心に、その願いを置かれます。そして、神があなたの心にその願いを置かれた結果、神はあなたにやりた

いと思わせたことに対して、喜びを与えてくださるのです。そういうことなのです。皆さんの夜を台無しにしたかな？　それは、とても偉大で壮大で輝かしい約束なのです。それは、心の願いが心の喜びになることです。私たちの心の中にあるその願いと喜びは、神が私たちの心の中に置いてくださった願いと喜びなのです。そして、彼らにはそれが全くありませんでした。ところで、間違ってはいけません、主は、その喜びと願いを彼らの心に置こうとされたのです。彼らは関心を向けなかったのです。神は決して、ご自分を押しつけるようなことはされません。自ら望む心、しなやかな心でなければなりません。そうすると神の御言葉の種が、私たちの心の土と出会い、その種が発芽して芽を出し、素晴らしい美しい実をつけることができるのです。11 節。

11 それゆえ、わたしの身には主の怒りが満ち、それを忍ぶのに、うみつかれている。「それをちまたにいる子供らと、集まっている若い人々とに漏らせ。夫も妻も、老いた人も、年のひじょうに進んだ人も捕えられ、

12 彼らの家と畑と妻とは共に他人に渡る。わたしが手を伸ばして、この地に住む者を撃つからである」と主は言われる。

理由を知りたいですか？　かなり強烈ですよね？　なぜか知りたいですか？13 節で理由が述べられています。

13「それは彼らが、小さい者から大きい者まで、みな不正な利をむさぼり、また預言者から祭司にいたるまで、みな偽りを行っているからだ。

14 節に行く前に少しだけお待ちください。14 節に少し時間をかけたいのですが、13 節も必要だと思います。もう一度、頭の中で描いてみてください。このイメージは、彼らが完全に貪欲に支配されていたことを表しています。しかも、それは民だけでなく、預言者たちや祭司たちまでもがそうだったのです。先週お話ししましたが、これを 3 つの P と呼びます。

Priests/祭司　Prophets/預言者　People/民

預言者とは、偽預言者です。祭司は、その権力の中で腐敗していました。また想像していただければと思いますが…今夜はこの言葉をたくさん使っていますね。民はそうすることを愛していたのです。（エレミヤ 5:31 参照）言い換えると、この預言者たち、偽預言者たちは偽りの預言をし、民はそれを好んだのです。そして祭司たちは実に腐敗していましたが、民はそれを好んだのです。彼らは一緒だったのです。13 節に面白い言葉があります。分かりましたか？「みな」原文で調べて、意味を確認しましょう。それは「皆」という意味です。深い意味があることは分かります。つまり、全員ということであり、大部分や一部、あるいは一部の腐敗した人たちではなく、あるいは、一部の悪い人たちでもなく、すべての人が、貪欲に支配されていたのです。そして、彼らの互いの接し方、貪り合い、取引の方法は、つまり、13 節に書かれているような不誠実さ、偽り、そのすべてが含まれていることを挙げることができるのです。そして、それで十分悪くないなら、14 節、

14 彼らは、手軽にわたしの民の傷をいやし、平安がないのに『平安、平安』と言っている。

分かりました。繰り返しますが、皆さんにお願いしたいのは…皆さんはとても親切です。私にとてもやさしく、私に忍耐してくださっています。しかしこれに関して、皆さんにご辛抱いただきたいと思います。そこでもう一度、エレミヤの時代に起こっていたこのことに、現代で起こっていることのテンプレートを重ね合わせてみましょう。つまり、預言者や祭司といった人たちが、基本的にみんなにこう伝えていたのです。

「あぁ、すべて大丈夫だよ。そんなに大したことではないよ。落ち着いて、進み続けよう。前進し続けよう。何も起こらないさ。すべて大丈夫だ。平和、平安。おっと、ちょっと待って。エレミヤが言っていることは知っている。お先真っ暗なやつだよ。エレミヤは裁きについて語っているが、いいや、そんなに悪くないよ。大丈夫だよ。」「彼らは傷をいやし…」これを見逃さないでください。「わたしの民の傷をいやし…」この民は、困っている人たち、傷ついている人たちなのです。そしてこういう人々がやって来ると、「やぁ、ちょっと見せてごらん」と言って、彼らは基本的に、バンドエイドを貼るのです。ちなみに、それは商品名です。粘着性の…何でもいいんですが、バンドエイドです。彼らは開いた傷口にバンドエイドを貼ります。これはかなり深刻です。「いいや、そんなことないよ。」いいえ、これは酷いです。「いや、そんなことない。大丈夫だよ。良くなるよ。大丈夫だよ。」いいえ！　あなたは私に「平安、平安」と言っています。しかし、平安はないのです。あなたは私に真実を告げていない。これは私を偽っているのです。私に真実を話していない。あなたは私が聞きたいことだけを話している。なぜそんなことをするのか？　あぁ、私にはその理由が分かります。なぜなら、あなたは私に自分の教会に戻って来てもらいたいのです。だから、私の耳が聞きたくてたまらないことを、ただ伝え続けるのです。これは、使徒パウロが聖霊によってテモテに語った、終わりの時代を特徴づける非常に有名な預言と一致しています。（Ⅱテモテ 4:3,4 参照）パウロはテモテに語っています。
「テモテよ。人々が健全な教えに耐えられなくなる時代が来ます。人々は我慢できないのです。
実際に、その代わりに人々はこうするのです。人々は”大勢で”集まり...興味深い詳細です。大きな教会になりそうです。あぁ、それはまた、私に真実を告げようとせず、私が良い人間であると伝え、平安がないのに「平安、平安」と伝える理由かもしれません。私は良い人間ではありません。罪びとです。しかし、あなたはそうは語りたくないのです。人々に心地よく感じてもらい、また戻って来てもらいたいからです。その人数は膨大なものになるでしょう。その大人数を収容するために、スタジアムを購入する必要がありそうですね。そうすると、何が起こるかというと、ものすごい数の人が集まってくるんです。なぜか？　人々が聞きたいこと、耳が聞きたくて仕方ないことだけを伝えようとするからです。そして聞く必要のあることは、伝えないのです。エレミヤの時代を想像してください。彼らは、裁きがくるという不人気なメッセージを、意図的に伏せていたのです。水を差したくはないのですが、私たちは素晴らしい時を過ごし、楽しんだことは分かっていますが、しかし、これは深刻です。裁きがくるからです。バビロンやって来るのです。あなたが建てた美しい家がありますが、その家は彼らに奪われます。あなたが植えた畑も、彼らが奪っていきます。あなたが所有し、誇りにしているブドウ畑も、バビロンが奪っていきます。実際、彼らはあなたをバビロンに捕虜として連れ帰るのです。彼らはこの町を破壊します。神はそれを許されるのです。神はそれを許さねばならないのです。なぜなら、もしそれが必要であるなら、そうするしかないのです。そしてもうひとつ、今読んだ文脈で、補足的に触れておきたいことがあります。それは周期的なものであって、それが何を意味するのか説明します。神はご自分の民を祝福されます。彼らは繁栄し、軟弱になり、そして貪欲や邪悪などに負けてしまうのです。そして、神が警告されても、彼らは悔い改めないのです。ですから、神は彼らの注意を引くために、このようなことをする必要があられるのです。そして彼らは捕虜となります。すると彼らは泣き叫ぶのです、「おぉ！神よ！」そして悔い改めます。神は彼らを戻し、回復させ、祝福し、繁栄させてくださるのです。すると彼らは…この表現をお許しください。彼らは太って生意気になります。ダメですか？　道徳的ではありませんが、要点は分かりますね？

そして同じことを繰り返すのです。ある人は「デジャブをもう一度」と言いました。重複していますね。民は、繁栄と神の祝福の中で、神に反抗して大きな罪を犯し、神は彼らに警告しますが、彼らは悔い改めません。ですから神は再び、重い裁きの御手を許さねばならないのです。そして彼らは悔い改めるのです。ここにいる私たちは、イスラエル人を見て、うぬぼれ、敬虔な気持ちになり、イスラエル人を見下しているのです。

「あぁ、民はどうしたんだ？　神は彼らを祝福し、彼らは神に対して罪を犯した。彼らがそれを理解できたらいいのに。」おぉ、そうですか？　あなたはどうなのですか？　これは私たちです。とても周期的なのです。神は私たちを祝福されます。そして、居心地が良くなって、当たり前になり、楽しむようになるのです。繰り返しますが、繁栄は逆境よりも危険なのです。そして、まさに神の祝福が、結局私たちを神から遠ざけてしまうのです。神は私たちをご自分のもとに戻そうとされますが、私たちはそうしません。ですから神は、私たちの注意を引くために、このようなことが起こるのを許さねばならないのです。それは神が私たちを憎んでおられるからではなく、私たちを愛しておられるからです。考えてみれば、もし神が私たちを愛しておられないなら、どうでもいいはずです。私たちの人生の中で、バビロン人が私たちを捕虜にして、味あわせることを許すほど、神は私たちを愛しておられるのです。私たちをそれに引き渡し、それで満ちるようにされます。そしてそれは、私たちが神に泣き叫ぶようになるためです。

「おぉ、神さま、私は罪を犯しました。」神は私たちを回復させ、祝福し、繁栄させてくださいます。

そして、私たちはまた繰り返すのです。民は当時そうしましたが、私たちも今、そうしているのです。

最後に一つ。それから次に進みます。またもやご辛抱ください。その日が来ます…このことは、ヤコブの手紙で見ることになりますが、14 節のゆえに、すべての説教壇にいるすべての牧師が、より厳しい基準で裁かれ、弁明をしなければならない日がやってくるのです。人々への愛のために、愛をもって真理を語り、警告することをためらったのか？　それを間もなくここで見ていきます。なぜなら、もしあなたがそうしないなら、人々の血の責任はあなたにあるからです。あなたが人々に警告しなかったから。あなたが人々に警告しなかった理由は、大勢の人に来てもらうことを願い、大勢の人が来ることができ、大勢の友達を連れて来てくれると知っていたのです。なぜなら...あぁ、まずこの男は…彼は、ウインドワード側にいるもう一人の、時に一時間以上話す男のように、それほど長くは話しません。この男は、20 分くらいです。「なるほど、今度参加してみます。」ある人はこれを、「クリスチャンっぽい短い説教」と名付けました。そうなのです。それは、軽いキリスト教です。それは、相手を打ちのめすようなものではありません。これは、その、軽い感じで、そこには深入りせず...「罪」のようなことについては、話したくありません。また、賛美と礼拝の旗印のもとに歌われているいくつかの歌を見ても…キリストの血という言葉が著しく欠けていることに気がつくでしょう。キリストの十字架、罪、罪びとという言葉が。「いや、それは少し不快なものですから。誰かを不快にさせてしまうかもしれないから。」何て？！　おだてて地獄に落とすより、怒らせて天国に入れる方が良いのです。なぜなら、いつか弁明する日が来るからです。最後に一つと言いましたが、これが最後です。それは実に皮肉なことです。繰り返しますが、ご辛抱ください。本当に皮肉な話です。なぜなら、説教壇にいる牧師は、気持ちの良い「平和、平安」というメッセージを説教すれば、人々が自分の教会に大勢集まるという考えを持っているからです。しかし、彼が気づいていないのは、その人々が、ちょっと待てよ、と気づくことです。特に、こんにち世界で起こっていることにおいて。これが、私が「綿菓子キリスト教」と呼ぶものです。綿菓子は、長い間食べてはいられません。時には、野菜や肉が必要です。肉が必要なのです。砂糖とスイーツだけではやっていけません。クリ

スチャンであるあなたは、例えるなら虫歯がたくさんありそうです。霊的な健康はどうなるのでしょうか？　食事が砂糖だったら、体の健康はどうなります？　あなたにどんな影響がありますか？　非常に不健康です。そしてここ数年、世界で起こっていることといえば、ちなみにそのことで神を称えますが、どうか誤解しないでください。神は起こるべきことが起こることをお許しになりました。そして、この出来事によって、多くの人々がイエス・キリストの救いを知るようになったのです。平和、平安のメッセージをする教会に通っていた人たちは、そこに座って、「ちょっと待てよ」と。「私は仕事を失いそうだ。自分の家も失いそうだ。生活が成り立たなくなる。それなのにあなた達はそこで、この歌と踊り、馬と子馬のショーをやっている...」おそらく必要以上に言ってしまいましたが、言いたいことは分かりますね？うまくいかないよ。もうそれじゃうまくいかないよ。ええ、3〜4 年前だったら、それは実行可能でした。教会に行って、気分が良くなって...「今日のランチは何？」今や、現実となってきているのです。私は座ってられません…ただ一般的な話です。もちろん、例えですが、世界であらゆることが起こっている時に、牧師が、まずそのことに何も触れさえしない教会に、私は座っていられません。牧師は何を話すのか？　あぁ…「イエスが履いていたサンダルの色はこれだと信じられていて、…そして、歴史的に人々は…」そのことを持ち出すのです。彼らはただ、ここととあそこの 2、3 節に触れて、ただ事を進めようとしているのです。そこに座っている人は、傷ついているのです。そして、その痛みをほんの少し癒やすだけです。これを座って聞いているその人は、真理を聞く必要があります。ええ、傷つくかもしれませんが、しかし、**「愛する者が傷つけるのは、誠実による。」（箴言２７:６）**

もし友達なら、真理で私を傷つけるでしょう。最初は恨むかもしれませんが、最終的には感謝するようになります。反対に、もし多くの口づけをするなら、箴言が語っているように、真理によって私を傷つけずに、代わりに多くの口づけをするなら、最初は感謝しても、最終的には恨むことでしょう。「なぜ言ってくれなかったの？」「なぜ言ってくれなかったの？」「私は真理を聞く必要がある。あなたは真理を語ってくれなかった。私を愛していないに違いない。私を愛していないはずです。」それでは。15 節。さらに悪くなります。ご存じのように。

15 彼らは憎むべきことをして、恥じたであろうか。すこしも恥ずかしいとは思わず、また恥じることを知らなかった。…

恥じないばかりか、恥じることさえ知らないのです。あぁ、こんにちの私たちの時代を説明していませんか？　恥じない。その方法さえ知らない。

…それゆえ彼らは倒れる者と共に倒れる。わたしが彼らを罰するとき、彼らは倒れる」と主は言われる。

16 主はこう言われる、「あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。…

イエスが仰ったことのように聞こえます。実際にイエスがエレミヤ書のこの節を引用されたと信じる人もいます。「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」（マタイ 11:28 - 30 参照）

興味深いのは、いにしえの道/古い道。いにしえの道に戻ってみましょう。証明された道、良い道。

「尋ね求め、立ってそこへ歩みなさい。そうするなら、あなたは魂のための安息を見つける。」

では、彼らの反応は？

…しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った。

え…？？　17 節。

17 わたしはあなたがたの上に見張びとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。…
では、彼らの反応は？
…しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った。
おお…実際にラッパを鳴らす見張り人がいたと言うことですか？　そうです。ラッパの音が鳴っているのです。「警告、警告、警告」「やって来る、やって来る、やって来る」彼らはどうしたのか？「私たちは聞かない。」ここでまた、懇願です。「わかれ道に立ち、よく見て、いにしえの道に尋ねよ。」なんだか思い出します。これについて少しだけ。私がこう言う時、皆さんが誤解されないことを願います。私は旧約聖書を教えるのが大好きです。新約聖書を教えるのも好きですが、旧約聖書が大好きなのです。皆さんが混乱しないことを願います。すでに混乱しているので、これ以上混乱させないようにしなければなりません。私は実際に、預言アップデートよりも、旧約聖書を教えることが楽しいのです。いいですか？
特に今は、預言アップデートは非常に強烈ですから。旧約聖書が大好きです。私が伝えたかったのは、これは何年も前に本土で、遠い昔の土地で、実際に交わした会話なのです。これは、旧約聖書に関する、実際の会話です。ある人が私に言います。「待って。旧約聖書？それって古いんじゃない？ 」旧約聖書ですから、古いのです。こんにち、旧約聖書に近づかない教会があるのは、不思議なことではないでしょうか。あぁ、その豊かさが奪われているのです。なぜなら、旧約聖書は新約聖書が明らかにすることを隠しているからです。新約聖書を読んでいる人は、これを見ると本当に…すでに混乱しているので手遅れですね。でも、白黒テレビで、バンバンと叩いていたのを覚えていますか？　お、いいですね、覚えていますね。アンテナは、正しい位置に配置するようにして…これは遠隔操作の前のものです。自分の子どもに言ったことでしょう。「昔は 3 つのチャンネルだったのよ。」ええ、立ち上がって、チャンネルを回さなければなりません。そしてダイアルが壊れたら、ペンチが必要です。ペンチが必要で、アンテナを直して…そして、このぼんやりした白黒の画面が表示されます。結論はありますので、ご心配なく。それは、新約聖書に自分を限定しているようなものです。なんだかぼやけていて、明確でないのです。色はどこに？　そこで旧約聖書です。旧約聖書に接続すると、あなたが見ている白黒のぼやけた画面が、3D・IMAX に変わるのです。ー（笑）ー　こんな例えばどうですか？　もっと良いのがあれば教えてください。つまり、おぉ、カラーなのです。その映像が…まあ、今は 4K もあるし、マイク、今は 8K とかですか？　それ以上ですね。皆さんの中には「何のこと？」と。画質はもちろん、技術も進歩しています。とてもクリアです。実際には、クリア過ぎるのです。HD から 4K に移行した場合、とても心配です。すでに話し合いましたが、だって、人が見るのですから…本当に細かいところまで見えるのです。それは良くありません。とにかく、脱線しました。いにしえの道、証明された道。18 節。
18 それゆえ国々の民よ、聞け。会衆よ、彼らにどのようなことが起るかを知れ。
19 地よ、聞け。見よ、わたしはこの民に災をくだす。それは彼らのたくらみの実である。彼らがわたしの言葉に気をつけず、わたしのおきてを捨てたからである。
待ってください、彼らは聞いたのに、注意を向けなかったのです。彼らは聞いたのです。なぜなら、私たちが読んだように、見張り人は警告を鳴らしていたのです。そして彼らは聞こうとしなかった。聞きたくなかったのです。彼らが聞きたいことは、「平和、平安」だけ。聞こえの良いことだけ語ってくれと。ですから、彼らは聞いたのに、それを拒否したと分かるのです。彼らは神の御言葉を聞いたのですが、神の御言葉を気に留めなかったのです。20 節。
20 シバから、わたしの所に乳香が来、遠い国から、菖蒲が来るのはなんのためか。あなたがたの燔祭は

わたしには喜ばしくなく、あなたがたの犠牲もうれしくはない。
ちなみに、シバ産の乳香は非常に安いのです。遠い国からのお菓子は、非常に高価です。これは嗜好品であり、贅沢品です。民は高価なささげ物や犠牲を捧げ、主は「何をしているのか？」と仰っているのです。「あなたはそれが受け入れられると思うのか？　わたしが思い直すと思っているのか。」私たちはそうしませんか？　私たちは自分がめちゃくちゃにしたことを分かっています。だから私たちは、めちゃくちゃにした分を取り戻そうと思います。「だから私は…もう少し多めに献金しようかな。」いや、いいですか。気にしないで。それは受け入れられません。埋め合わせするようなものではないのです。「わたしは犠牲を望んでいない。従順を望む。犠牲ではなく、従順を。」21 節。
21 それゆえ主はこう言われる、『見よ、わたしはこの民の前につまずく石を置く、人々は父も子も共にそれにつまずき、隣り人もその友も滅びる』。」
22 主はこう言われる、「見よ、民が北の国から来る、大いなる国民が地の果から興る。
23 彼らは弓とやりをとる。彼らは残忍で、あわれみがなく、海のような響きを立てる。シオンの娘よ、彼らは馬に乗り、いくさ人のように身をよろって、あなたを攻める。」
24 われわれはそのうわさを聞いて、手は弱り、子を産む女に臨むような悩みと苦しみとに捕えられた。
25 畑に出てはならない、また道を歩いてはならない。敵はつるぎを持ち、恐れが四方にあるからだ。
それは常に結果として生じるものではないのでしょうか。恐れとは、平安がないことですよね。26 節。
26 わが民の娘よ、荒布を身にまとい、灰の中にまろび、ひとり子を失った時のように、悲しみ、いたく嘆け。滅ぼす者が、にわかにわれわれを襲うからだ。
27「わたしはあなたを民のうちに立てて、ためす者、試みる者とした。あなたが彼らの道を知り、それをためすことができるようにするためである。
そして、章の最後です。28 節。
28 彼らはみな、強情な反逆者であって、歩きまわって人をそしる。（想像できます）彼らは青銅や鉄であって、（それは良くありません）みな卑しいことを行う。
29 ふいごは激しく吹き、鉛は火にとけて尽き、精錬はいたずらに進む。悪しき者がまだ除かれないからである。
30 主が彼らを捨てられたので、彼らは捨てられた銀と呼ばれる。」
言い換えると、その精錬する火は、銀を精錬するも、金を精錬するも、それは何の意味もない。無意味で、効果がなく、無駄なこと。なぜか？　彼らが青銅や鉄のようになったからです。青銅や鉄は、精錬できません。つまり、銀はないのです。価値のあるものは何もない。金もない。確実に価値のあるものはありません。精錬する貴金属が残っていなかったのです。どんな精錬も無駄だったのです。なぜ無駄だったのか？　なぜなら、彼らは神を拒絶したからです。そのため、神は彼らを拒絶されたのです。それを裏返さないでください。主は決して私たちを捨てず、私たちを見捨てられません。世界の終わりまで、主は私たちと常に共におられます。しかし、もし私たちが主を捨てるなら、主は私たちを捨てられます。なぜか？主は決してご自身を私たちに押し付けられないからです。もし私たちが主を拒絶するなら、主はこう仰います。「分かりました。わたしはあなたに強いることはできない。あなたはわたしを捨てた。わたしはあなたに強いることはできない。あなたがわたしを捨てた。分かっていた。あなたは私を拒絶した。分かりました。いいでしょう。あなたにわたしを押し付けることはしない。あなたはもう心に決めている。あなたは心をわたしに対して硬くし、わたしを拒否した。そのために、今度はわたしがあなたを拒否す

る。」良い夜をお過ごしください。それでは聖餐を与かりましょう。ー（笑）ー
言えるのは…、これは難しいです。自分のことだけを考えているのは分かっています、私が一番考える人物は自分自身だからです。これを教えるのは大変だなあと思います。でも、このように終わる教えを受ける側も、どんなに大変だろうと思います。しかし、私たちはこれを聞く必要があります。大変ですが、良い事です。そしてね、聖餐式のお祝いがより一層甘美なものになるんです。ルカの福音書 22 章 14 節からお読みします。

ルカ 22

14 その時刻が来て、イエスは席に着かれ、（12 人の）使徒たちも一緒に座った。

15 イエスは彼らに言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたと一緒にこの過越の食事をすることを、切に願っていました。

16 あなたがたに言います。過越が神の国において成就するまで、わたしが過越の食事をすることは、決してありません。」

17 そしてイエスは杯を取り、感謝の祈りをささげてから言われた。「これを取り、互いの間で分けて飲みなさい。

イエスはもう一度こう言われます。二度目です。

18 あなたがたに言います。今から神の国が来る時まで、わたしがぶどうの実からできた物を飲むことは、決してありません。」

イエスがここで仰っていることは、だからこそ、私たちは親しみを込めて「最後の晩餐」と呼んでいるのです。イエスが弟子たちと食事を共にした、最後の時です。イエスはすでに弟子たちにこれから何が起こるかを語っておられました。十字架にかけられ、人に渡され、葬られ、死からよみがえることを。そして、彼らはそのことを理解することができなかったのです。もちろん、それに対するペテロの反応は、まさに度を越したものでした。イエスはペテロを叱責され、「下がれ、サタン」と言われました。（マタイ 16:23 参照）

ペテロがサタンだったわけではありませんが、それはサタンが望んでいたことなのです。サタンは、イエスが人類の罪の代価のために、十字架に向かって欲しくなかったのです。ですから、弟子たちは本当に苦しんでいました。そこでイエスは彼らに仰るのです。「食事を共にするのはこれが最後です。しかし…こういう事です、次に、共に食事をするのは、これがわたしの王国で成就する時です。」イエスがこう仰っているようです。「待ちきれません。ある訳では、その時を熱心に待ち望む、熱烈に望むと表現しています。今夜わたしたちがすることは、「最終的にわたしの王国で成就するのです。」なぜそこを強調するのかというと、非常に厄介で…この言葉がいまだに大好きです、お許しください。先ほど学んだエレミヤ書の章が厄介だったとしても、私たちには、楽しみにするこのことがあるのです。それを思い出す必要があります。そして、これがすべてのポイントなのです。そのために、イエスは私たちにこうするように与えて下さったのです。そして、何度でも、イエスを思い起こしながら行うことです。なぜか？なぜなら、エレミヤ書 6 章のような章を学ぶことができ、こう言っても過言ではありません。「あぁ、これは酷い。」「そうです。あなたは忘れたのですか？　忘れたのですか？」「おぉ、そうだ。思い出させてくださって感謝します。思い出す必要がありました。」

ルカ 22

19 それからパンを取り、感謝の祈りをささげた後これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「これは、あ

なたがたのために与えられる、わたしのからだです。わたしを”覚えて”、これを行いなさい。」
私たちはこれを行うのです。ここにおられる方は、聖餐式セットの上部を開けて、パンを取ってお待ちください。私たちのために、私たちの身代わりに砕かれたイエス・キリストのお体の象徴です。骨ではありません。イエスが過越の小羊として不適格となるからです。なぜなら、小羊の骨は一つも折れないと預言されたからです。皮膚が、7 か所裂かれたのです。完全数です。御業が完成し、完了したからです。しかし、イエスの体は十字架上で、私たちのために砕かれました。私たちがいただくとき、イエスが私たちのために死んでくださったことを思い起こしましょう。共にいただきましょう。
主よ感謝します。聖餐式は、私たちがただあなたのもとに戻ってくるための時間なのです。先ほど読んだように、いにしえの道、証明された道に。そして、あなたが私たちにしてくださったことを思い出し、私たちを買い取り、代価を支払い、贖ってくださったことを思い出すためです。主よ、感謝します。このことに感謝します。このようにすることを与えて下さり、ありがとうございます。主よ感謝します。
ルカ 22
19 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。
旧約は仕事なし、肩書きなしと片付けられていないのです。実は、ここで行っているのは旧約の成就なので、新約なのです。新約聖書は旧約聖書が隠していることを明らかにするのです。旧約はすべて、初めの創世記の 1 章 1 節から、イエス・キリストという人物を指し示しています。そして、キリストという人物だけでなく、イエス・キリストの十字架上で完了された御業をも、指し示しているのです。古いものが新しいものを指し示しているのです。そして、イエスは古いものを新しいもので成就させます。イエスは弟子たちに言われます。「この杯は、…」繰り返しますが、象徴です。杯をとって、残りを剥がしてください。「これはわたしの血の象徴です。わたしの体はパンであり、わたしの体の象徴であるパンは裂かれ、わたしの流された血の象徴は杯です。」なぜこれが重要なのか？　なぜなら、血を流すことなしに罪の赦しはないと、聖書は語っているからです。イエスはご自分の血を流されました。そして、その血に力があるのです。それほどまでに、イエス・キリストの血は私たちの罪、すべての罪を取り除き、東と西が離れているほどに、遠ざけてくださり、神がもう私たちの罪を覚えておられないほどに、力強いものなのです。その血のゆえに、神が私たちをご覧になるとき、神は私たちの罪ではなく、私たちのために命を与え、私たちのために血を流されたご自分の御子をご覧になるのです。それほど血は力強いものなのです。
共にいただきましょう。レイトゥ（賛美リーダー）、上がって来てください。どうぞお立ちください。
主よ、私たちは決して聖餐式を急いで行いたいとは思いませんし、聖餐式が単なる形式的なもの、伝統的なものになることを望んでいません。主よ今夜、私たちがあなたの体であるパン、あなたの血である杯を共にいただいたゆえに、私は祈ります。それは私たちのためであり、あなたが私たちをどれほど愛されているのかを思い出す、必要な時間です。あなたは私たちをとても愛してくださっています、主よ。あなたの私たちへの愛を、思い出す必要があります。人のために命を捨てるほど、偉大な愛はありません。
それがあなたが私たちのためにしてくださったことです、主よ。今夜、私たちがしたことは、主よ、あなたがしてくださったことを思い起こしながらしました。どんなに感謝してもしきれません。私たちも、主よ、その日を熱烈に待ち望んでいるのです。私たちが今夜ここで行ったことは、もうすぐ、とても近いうちに、あなたの王国で最終的な成就を見ることができると信じています。主よ、待ちきれません。
主イエスよ、早く来てください。マラナタ。イエスの御名によって祈ります、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

http://www.calvarychapelkaneohe.com/

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7